



今回は、AFS を利用したブラジル留学の報告です。

◇ 公益財団法人AFS日本協会の活動

AFS とは American Field Service のことで、傷病兵の救護輸送に携わった米国のボランティア組織がその起源です。1947 年以降は、平和を目指した異文化交流を目的とした組織に転換し、世界各国で留学生の派遣や受け入れ、各種の交流事業を行っています。

本校にも、過去にチリやコスタリカ、オーストラリア等に留学し、貴重な経験を積んできた生徒がいますし、現在もイタリアや米国、ブラジルに留学している生徒がいます。今回は、2 年生の大野景太君のブラジル留学体験記を紹介します。

◇ ブラジル留学で学んだこと

2年 大野 景太

なぜ留学か

こんにちは。私の名前は大野景太です。一年間ブラジルへ留学していました。これからなぜ留学をすることになったのか、自分が一年間向こうで学んだこと、留学をしての今の心情、これからの未来について書きたいと思います。

まず、皆さんは留学とは何か知っていますか？ 留学とは外国にいて、そこの学校などで一定期間勉強することです。私の留学のイメージは、とても頭が良い人しか行けないとか、留学なんでもっと大きくなってからでしかできないとか、自分にはかなり遠いイメージでした。しかし、ある出来事がきっかけで自分の留学に対するイメージがガラッと変わりました。

それは兄の留学です。兄は、私が中三の時に一年間オーストラリアへ留学しました。はっきり言ってすごいと思ったし、英語がペラペラになって帰ってくるのだろうなあと思いました。

実際兄は自分より成績が良いので、留学というのはまだ自分から遠い存在で、留学への思いや興味も星のかけらほどでした。兄が一年間の留学を経て帰ってきたときは、前とは別の雰囲気を感じたし、英語はペラペラになっていました。さらに兄は英語だけを学びにitted だけではなく、宗教、文化、食など、向こうの様々なことがらを学んでいました。それゆえに、以前の兄とは別の雰囲気を感じたのだと思います。

兄の姿を見て、留学への興味がすごく高まりました。このときから、留学について調べたり、日本に来ている外国人留学生と話したり、留学した人からのお話を聞いたりして、自然と留学がしたいという気持ちに近づいていきました。そして留学がしたいという思いが固まった後、AFS にテストを受けに行きました。何日かして、私はブラジルへの留学切符を手に入れることができました。

AFS は毎年何百人という留学生を何十か国へ送り出します。留学できる場所は何十とありながらも、私はブラジルを選びました。なぜかという、最初は英語以外の言葉を覚えてみたいとか、南米に一回行ってみたいという夢みたいなものがあつたからです。そしてブラジルへ行くため、私はポルトガル語講座へ行きました。そこで私は一人のブラジル人と出会い、その方は私の先生となりました。毎週会ってはポルトガル語を学ぼうとするのですが、全く頭に入ってきませんでした。次第に、この人といつかポルトガル語で会話をしたいという気持ちが芽生え、ポルトガル語の勉強意欲が高まりました。

私はこのようないきさつでブラジルに留学することになりましたが、留学をする動機というのは人それぞれだと思います。留学した友人の理由も様々で、本場のピザが食べたかったからイタリアとか、自分はアルゼンチンという国を何も知らないからアルゼンチンとか、いろいろあります。ここで私が言いたいのは、最初の留学したい動機というのはこのようなことでもいいのではないかということです。そこからその国について調べることでさらに興味が深まり、留学を本気でしたいと思ってくると思います。ですから留学をするということをあまり難しくとらえないでほしいと思います。

ブラジルでの生活

ここからは留学中の話です。私は成田空港から飛び立ち、アメリカ経由でブラジルにたどり着きました。約一日と数時間かかり、かなり疲れました。ブラジルについたときなぜかドキドキしていました。新しい場所で新しい生活が始まるのだから、ものすごくワクワクしていたんだと思います。私はここブラジルで数え切れないほどの経験をし、学びました。

始めに私は大きな壁にぶち当たりました。それは言葉の壁です。ブラジルの言語はポルトガル語です。私はポルトガル語をほとんど知らずに行ったので、最初、ブラジル人と話すときはほんとに赤ちゃんのように頷くことしかできませんでした。自分の中ではかなり悔しい体験であり、自分なりに勉強する努力をしようと決意しました。

ポルトガル語を覚えるため、自分に二つの制約を課しました。一つは“毎日、日記を書くこと”です。これをしたのは毎日その日になにが起こったのか、自分は何をしていたのか、何を思っていたのかを書くことで、ポルトガル語の力が成長すると思ったからです。二つ目は“日本語をできるだけ使わない”ということです。これは日本語を身の回りから消すことで、ポルトガル語だけを使うようにして、ポルトガル語に早くなれるためです。だから私は一年間留学をしていた間、家族とは母だけとしか会話していなかったし、友達も三人ぐらいとしか連絡は取りあっていませんでした。それも毎日ではなく月に一、二回する程度でした。これにより時が経つにつれ、ポルトガル語は自然と上達していきました。

しかし言葉が上達したのはこれだけではありません。やはり一番言葉が上達した理由は、“家族”（ブラジルのホストファミリー）と“仲間”（ブラジルの友人）の存在です。

私の家族は、いつも留学生ということをあまり気にせず、たくさん話しかけてきました。先ほども言ったように、最初のころは本当にわからなくてかなり苦しかったです。そんな時、自分を支えたのが目標でした。私には、留学をするうえで大きな目標があり、それを何としても達成したかったので、最初はとにかく常にどこへ行くときも辞書を片手に頑張りました。また家族からは言葉だけではなく文化、礼儀など学んだり、時には喧嘩をしたり、自分の子どものようにしかったりしてくれて、本当に心から感謝しています。

次に仲間についてです。自分自身の明るい性格を生かした結果、たくさんの友人ができました。さらに友人と過ごす時間が経つにつれ、親友もできました。ここで私が学んだことは、“友人に対しても厳しく言うということ”です。例えば日本の場合、友人が間違っただけをしても、それについて本気で注意はしないという傾向があると思います。なぜなら友人であるからです。ブラジルでは、親しい友人を家族に等しい存在と思う人がほとんどです。だから友人を家族と思っているからこそ、厳しいことが言えるのだと思います。この考え方を学ぶことができうれしく思うし、ブラジルの友人には感謝しています。

さて、私は留学中に山ほどの思い出を作りましたが、その中で一番の思い出を紹介したいと思います。それはイグアスの滝へ一人で行ったことです。まずこの旅行をした目的は、イグアスの滝を見てみたかったことと、自分がどれだけ成長したのか試してみたかったからです。この二つ目の目的の意味は、自分で考えて適切な行動が一人でできるのか、自分のポルトガル語は通用するのかなど、つまり一言で言えば、自立ができたかどうかをみたかったからです。そしてこの旅行中は、すべて自分で何をすべきか常に考え行動することができたし、自分の言葉も問題なく会話することができたのでとてもうれしかったです。また、自分の自立という大きな自信にもなりました。

さらにもう一つ特別な思い出があります。それはデング熱にかかったことです。デング熱のウイルスは蚊の吸血活動によって人から人に感染し、発症すると高熱に達します。私はこのことを知っていたから、毎日虫よけスプレーをしていたし、これならたくさんは刺されないだろうと思っていました。でも今思えばその考えは甘かったと思います。

ブラジルと日本ではブラジルのほうが蚊の発生環境がよいため、蚊が大量にいました。実際毎日虫よけスプレーをしていたのですが、慣れてくるにしたがい適当にすますようになりました。それがあだとなり、一夜で何十という蚊に刺されました。その日から二日間、40度の高熱と頭痛、関節痛、食欲不振に悩まされ苦しかったです。自分の不注意や環境に慣れてなかったということもあり、仕方がなかったと思います。ですが、この経験をこれからブラジルに行く人や将来

外国に行く人に伝えたいです。それによりデング熱が危険な病気ということを改めて知ってもらいたいし、外国に行くということは危険を伴うということを知ってもらいたいと思います。

留学生活を終えて

今、私は留学を終えて、日本での生活に戻りました。一年間もの長い間、日本を離れていたため、すべての物事が新鮮に感じられました。例えば家族と話したり、友だちとふざけあったり、日本のごはんを食べたりすることです。そしてそのあった人たちに、“なんか、景太君、大人になったね”、“成長したな”などの言葉をいただいたとき、とてもうれしく感じました。自分でも留学で成長したと感じていましたが、人から言われると、より自信を持つことができました。

留学することができたのはすべて両親のおかげです。費用のことや書類作成など、多くのことをサポートしてもらい、本当に感謝しています。“ありがとうございます”。

私はこれから自分が留学をして学んだことを、多くの人に伝えていきたいと思います。なぜならみんなに留学というものを知ってもらいたいし、自分のことを知ってもらいたいからです。そしてその後には自分のことについてじっくり考えたいです。留学をしてまたさらに海外に興味湧き、もっと他の国について知りたと思うし、将来の夢について少しずつ考えたいと思います。まだはっきりとした夢はわかりませんが、留学をしてなりたと思う仕事が出てきたので、それについて考えたいです。

留学は自分にとって人生の大きな機転となりました。留学をしてよかったと思いますが、必ずしも留学によって自分を変えることができるとは思わないでください。私が思う留学とは、自分を変えるきっかけ、語学を学ぶきっかけなど何かのきっかけを作るものだと思います。

また留学をするためには大切なものが一つあると思います。それは目標です。なぜなら目標がなければ留学の時、今何をしているのかがわからなくなると思うからです。目標というのは、自分の大きな壁であるし、心の支えでもあります。だからもしも留学をする、したいと思っている人は自分の目標を明確に持って臨むといいと思います。

